

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

#### 4 本校の参加状況

- ① 国語 87人
- ② 算数 87人

#### 5 留意事項

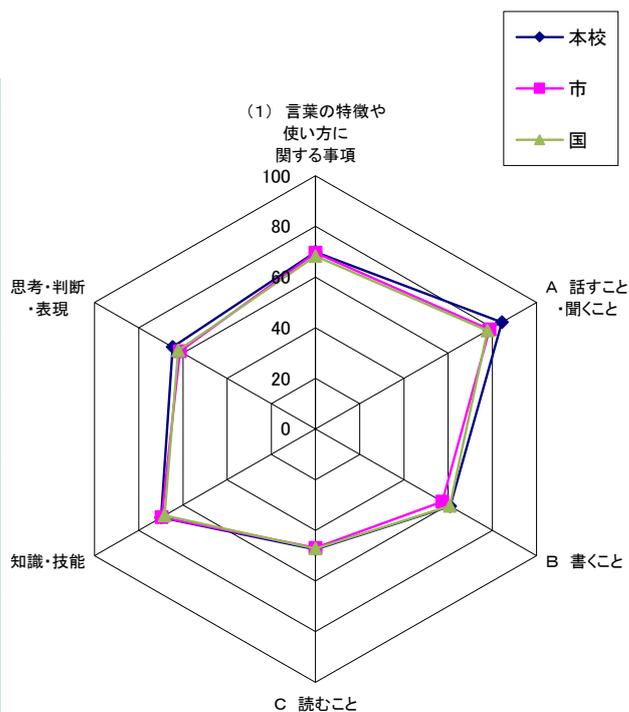
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	69.9	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	84.3	78.7	77.8
	B 書くこと	60.9	57.3	60.7
	C 読むこと	47.5	46.9	47.2
観点	知識・技能	69.9	69.6	68.3
	思考・判断・表現	64.7	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

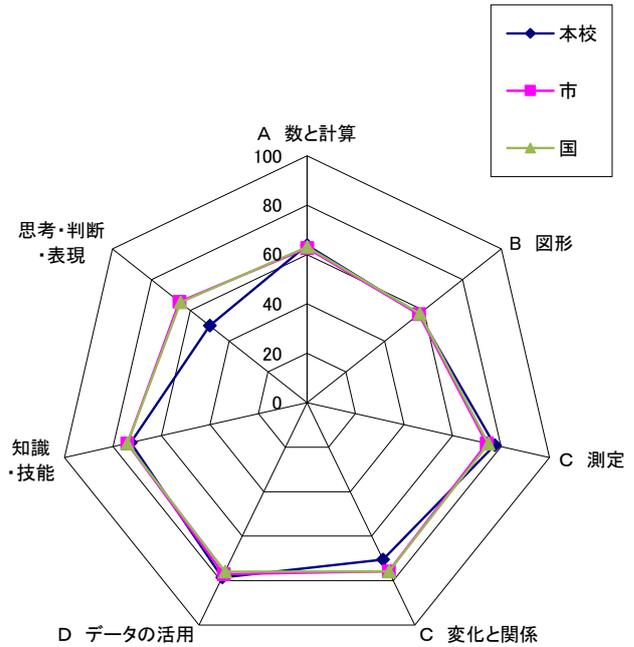
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は69.9%で全国や市と同程度である。</li> <li>○文における修飾と被修飾との関係を捉えることにおいては、57.5%で、全国や市の平均より13ポイント高い。</li> <li>●学年別漢字配当に表されている漢字を文の中で正しく使うことについて、全国平均よりも8ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIDドリル等を活用して、繰り返し練習する活動を取り入れるようにする。</li> <li>・既習の漢字を使って短文を作ること(音訓読みを使って)に繰り返し取り組むようにする。</li> </ul>
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は84.3%で、全国や市よりも7ポイント程度高い。</li> <li>○目的や意図に応じて話す正答率は90.8%で全国や市の平均と比べて10ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じてスピーチするために、スピーチの構成を考え、スピーチメモを効果的に活用できるように指導する。</li> <li>・国語だけでなく、学習活動のあらゆる場面で資料を用いた発表の仕方を指導していく。</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、62.1%で、全国や市と同程度である。</li> <li>●目的や意図に応じて、理由を明確にしなが自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは、全国の平均と同程度だが、59.8%と低く無回答も多い。</li> <li>●自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える問題は、62.1%全国や市の平均と同程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図を正しく読み取り、条件に沿って資料を活用することができるよう、資料を使って自分の意見とその理由をまとめ、書く指導をする。</li> <li>・意見文を書くときは、自分の主張が明確になるような文章全体の構成を考えられるよう指導する。</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、47.5%で、全国や市と同程度である。</li> <li>○目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けるにおいては、42.5%で全国平均を8ポイント上回っている。</li> <li>●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することについては、全国平均を4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ本の内容を要約する活動に繰り返し取り組みせ、内容の中心や事象を的確に把握できるように指導する。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.8	62.6	63.1
	B 図形	57.5	57.5	57.9
	C 測定	77.4	74.1	74.8
	C 変化と関係	70.5	75.8	75.9
	D データの活用	78.6	77.1	76.0
観点	知識・技能	72.7	74.1	74.1
	思考・判断・表現	50.0	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、63.8%で全国や市と同程度である。問題別に見ると小数、分数を含む計算や式の意味を問われる問題での正答率が低い傾向にある。</li> <li>●文章問題から除算の式を表す問題では、正答率が49.4%で全国と比べると6.1ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な計算プリントや計算ドリルでの反復学習を引き続き行い、基本的な四則の計算力を高めていく。加えて、小数や分数を含む計算での誤答がなくなるよう、位や分母・分子に着目するよう指導していきたい。</li> <li>・文章問題を考える時には、数量の関係を丁寧に確認し、式の意味が理解できるようにする。</li> </ul>
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、57.5%で全国や市と同程度である。</li> <li>●二等辺三角形を組み合わせて平行四辺形の面積を求める問題では、高さを正しく読み取れない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形に関する学習では、操作活動を多く取り入れ、形を組み合わせたり、切ったりしながら、その形の特徴について理解を深めるようにする。</li> </ul>
C 測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、77.4%で全国や市と同程度である。問題別に見ると、全3問で市の正答率を上回っている。</li> <li>○2つの道のりを比べるために必要な数値を選ぶ問題では、市と比べると7.1ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の具体的な場面に対応させながら、必要な数値を選んだ根拠や理由を説明する活動を充実させる。</li> </ul>
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、70.5%で、全国や市と比べて5ポイント程度低くなっている。問題別に見ると、速さを求める式の計算やその意味を問われる問題での正答率が低くなっている。</li> <li>●速さと道のりを基に、時間を求める式を考える問題では、市の正答率と比べて、7.5ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題を考える時には、道のり、時間、速さの関係を丁寧に確認し、正しい読み取りができるよう引き続き指導する。</li> <li>・朝の学習や宿題で定期的に速さに関する問題に取り組み、知識の定着を目指す。</li> </ul>
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、78.6%で全国や市と同程度である。</li> <li>○問われていることに対して、適切なデータを選ぶ問題では市の正答率と比べて、5.8ポイント高い。</li> <li>○データを数値を表に分類する問題では、市の正答率と比べて、7.5ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなデータやグラフの読み取りを行い、読み取ったことをまとめたり、友達と話し合ったりしながら見方や考え方を広げる活動を充実させる。</li> <li>・他教科にもおいても、日常的にデータやグラフを読み取る活動を取り入れ、正しく読み取る力を育成する。</li> </ul>

## 宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は65.5%で、市や全国の割合を8～13ポイント上回った。本校で毎年6月に実施している雀宮サミットでは、児童が地域をよくしていく取り組みを考えて、地域に提案するという活動を行っている。児童が自分の住む地域について考える機会を持つことが、地域・社会をよくしていこうという思いにつながっていると考える。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことですか」の質問に肯定的に回答した児童は98.9%であり、ほとんどの児童がいじめはしてはいけない、許してはいけないという思いを持っていることが分かる。日々の児童の様子から見つかった小さなトラブルの早期発見・早期解決をチームで行っている。それに加え、年に2回のいじめゼロ強調月間には、全校児童から標語を募集したり、児童会主催のいじめゼロ劇を放映したりして啓発活動に取り組んでおり、よい結果へとつながったと考える。

○「英語の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は73.6%で、市や全国の割合を上回った。「学校の授業以外で英語に親しんでいる」と答えた児童は市の割合より低かったが、ALTとの連携を図り、子供たちの関心が高まる効果的な授業が行えている結果であると考えられる。

●「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、30分以上、1時間より少ない、また30分より少ないと答えた児童の割合は42.3%で、市や全国の割合より7～13ポイント高く、学年相応の時間、家庭学習を行うことができていない様子が見られた。本校の家庭学習の目標は『10分×学年』となっている。中学校への進学を控えた今、取り組ませる内容を工夫したり、自主学習への取り組みを強化させたりして、60分以上の家庭学習を定着させたい。

●「国語の授業は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は43.6%で、市や全国の割合を15～20ポイント下回った。しかし「大切だと思いますか」「よく分かりますか」の質問では、市や全国と同程度であった。大切な学習だと考えている児童の思いを大切に、国語を楽しく学べる工夫をしていく必要がある。

●「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に対して肯定的に回答した児童の割合は、市や全国と比べて10ポイント前後低かった。感染対策で話し合い活動が制限されている中であるが、積極的に話し合い活動を行えるような手立てを講じて、児童同士がやり取りすることでお互いの考えを知り、それぞれの考えに生かしたり、より高い目標に向かって努力したりできるような児童の育成を目指していきたい。

## 宇都宮市立雀宮中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力向上に向けた指導の工夫	・読解力を付けるための語彙・文法の基礎の定着を図った朝の学習でのプリント学習 読書の推進	国語の「読むこと」の領域に関して、領域の正答率は全国と同程度である。
作文力の育成	・作文力を付けるための朝の学習や家庭学習における定期的な短作文プリント学習 ・新聞の活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は全国と同程度である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の調査結果から、漢字の読み書きの問題や言葉の学習に関する問題で、正答率が全国よりも低くなっている。	漢字の読み書きや言葉の特徴、使い方の知識の育成	全校で漢字チャレンジデーに定期的に取り組み、学習した漢字の定着を図る。また、語彙を豊かにするため、同音異義語等も取り入れながら、国語辞典で意味を調べたり、短文作りをしたりする。
国語の調査結果から、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率が低い。	読み取ったことをもとに考えを書く力の育成	授業の中で、段落や文相互の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけて要約したりする活動を意図的に位置づける。また、条件を付けた短作文を書かせたり、新聞を視写させたりする。